

2. 天田内遺跡第2次発掘調査報告

1. はじめに

今回の発掘調査は、主要地方道綾部大江宮津線(以下府道と呼称)の歩道設置工事に先立ち、京都府建設交通部の依頼を受けて実施したものである。改良工事に伴って調査対象となった天田内遺跡は、京都府福知山市大江町天田内に所在する。天田内遺跡の調査としては、旧大江町教育委員会による遺跡の範囲確認調査(第1次調査^(注1))が実施され、今回が第2次調査となる。なお、今回の調査に先立って京都府教委員会が対象地内の立会調査を行っており、その際には弥生時代後期から古墳時代前期にかけての遺物が出土した。また、現在の府道の新設工事の際にも、多数の遺物が出土しており、今回の調査でも遺構・遺物の検出が予想された^(注2)。

発掘調査は、当調査研究センター調査第2課課長補佐兼調査第1係長小池寛、同課調査第3係調査員筒井崇史が担当した。調査期間は、平成21年4月21日から6月12日までである。調査面積は、当初250㎡の予定であったが、当該工事を円滑に進める必要から事業者から依頼を受け拡張を行ったため、最終的な調査面積は350㎡となった。また、発掘調査と整理作業には多くの調査補助員・整理員の参加・協力^(注3)をいただいた。本報告の執筆は筒井が行った。

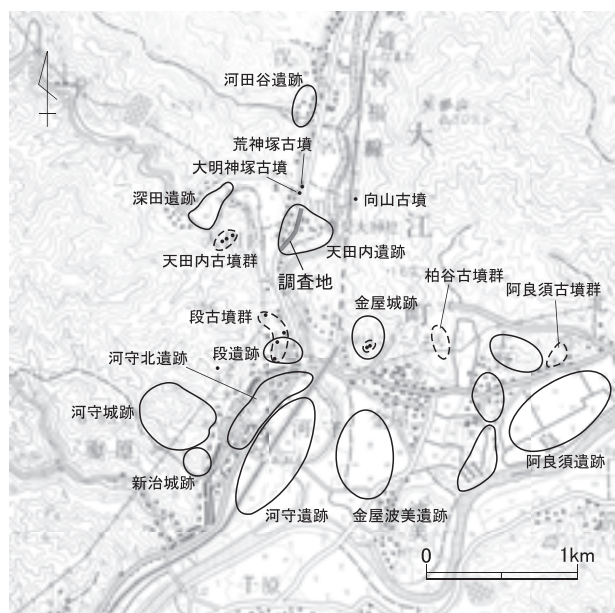
なお、本報告で用いた国土座標系は世界測地系を使用した。調査期間中は、京都府教育庁指導部文化財保護課・福知山市教育委員会などの関係諸機関からご教示・ご協力をいただいた。

今回の発掘調査にかかる経費は、全額、京都府建設交通部が負担した。

2. 遺跡の位置と歴史的環境

天田内遺跡は、由良川の支流である宮川の右岸に位置する(第1図)。由良川との合流点からは約2km上流の宮川の右岸に位置し、遺跡の東半部には元伊勢外宮として知られる豊受大神社が鎮座する船岡山がある。船岡山の標高は約42m、今回の調査地の標高がおおむね16~20mで、比高は20m以上を測る。

天田内遺跡周辺の遺跡としては、すぐ北側に荒神塚古墳や大明神塚古墳がある。また、西方には、宮川に流れ込む雲原川に面して深田遺跡や丘陵上に天田内古墳群がある。



第1図 調査地位置図および周辺の遺跡分布図
(国土地理院 大江山 1/50,000)

る。遺跡の南約1kmには段古墳群や段遺跡がある。段遺跡では、12世紀末から13世紀にかけての鍛冶生産遺構が検出されている。調査地周辺での調査事例は少ないが、天田内遺跡については、府道建設や第1次調査に際して、弥生時代から古墳時代の遺物が出土しており、上記古墳群との関係や集落遺跡の一端を明らかにできる可能性が期待された。

3. 調査の経過

府道の改良工事は、現在の府道の歩道新設を目的としていたため、調査区の幅は、限られた幅にならざるを得なかった(第2図)。今回の調査では、調査区を大きく4地区に分けたが、宅地や畑地との関係上、小規模なトレンチを畑地ごとに設けることとなった。

発掘調査は、平成21年4月21日から2区を対象として開始した。2区の調査は、対象となる範囲が狭いので、当初から人力による調査を行った。5月8・11日には1区・3区・4区の重機による表土掘削を行い、その後、人力による調査を行った。2区を中心に多数の遺物が確認されたため、5月14日に現地協議を行い、当初排土置き場としていたか所も含めて、可能な限り調査を実施することとなった。拡張部のうち、2・3区については人力で拡張を行い、1・4区については6月1日に重機による表土掘削を行い、その後、人力による調査を行った。

調査の結果、1・4区については若干の遺物が出土したものの、大きく削平もしくは攪乱されており、顕著な遺構は検出できなかった。3区では北半部が4区と同じような状況であったが、



第2図 トレンチ配置図及び周辺地形測量図

南半部については若干の遺構と少量の遺物が出土した。2区では包含層から大量の遺物が出土したが、これらはいずれも2次堆積であった。遺構としては地山上で土坑や柱穴などを検出した。

調査にかかる作業はおおむね6月初旬には終え、1区・3区北半部については6月11日に重機による埋め戻しを行った。2区・3区南半部・4区については6月5日から12日にかけて順次人力による埋め戻しを行った。また、6月12日の調査終了後、地元向けの発掘調査説明会を天田内公民館で実施した。これらをもってすべての調査を終了し、機材を撤収した。

なお、調査期間中の6月4日には福知山市立美鈴・有仁両小学校の児童が現地見学に訪れた。

4. 調査の概要

1) 検出遺構

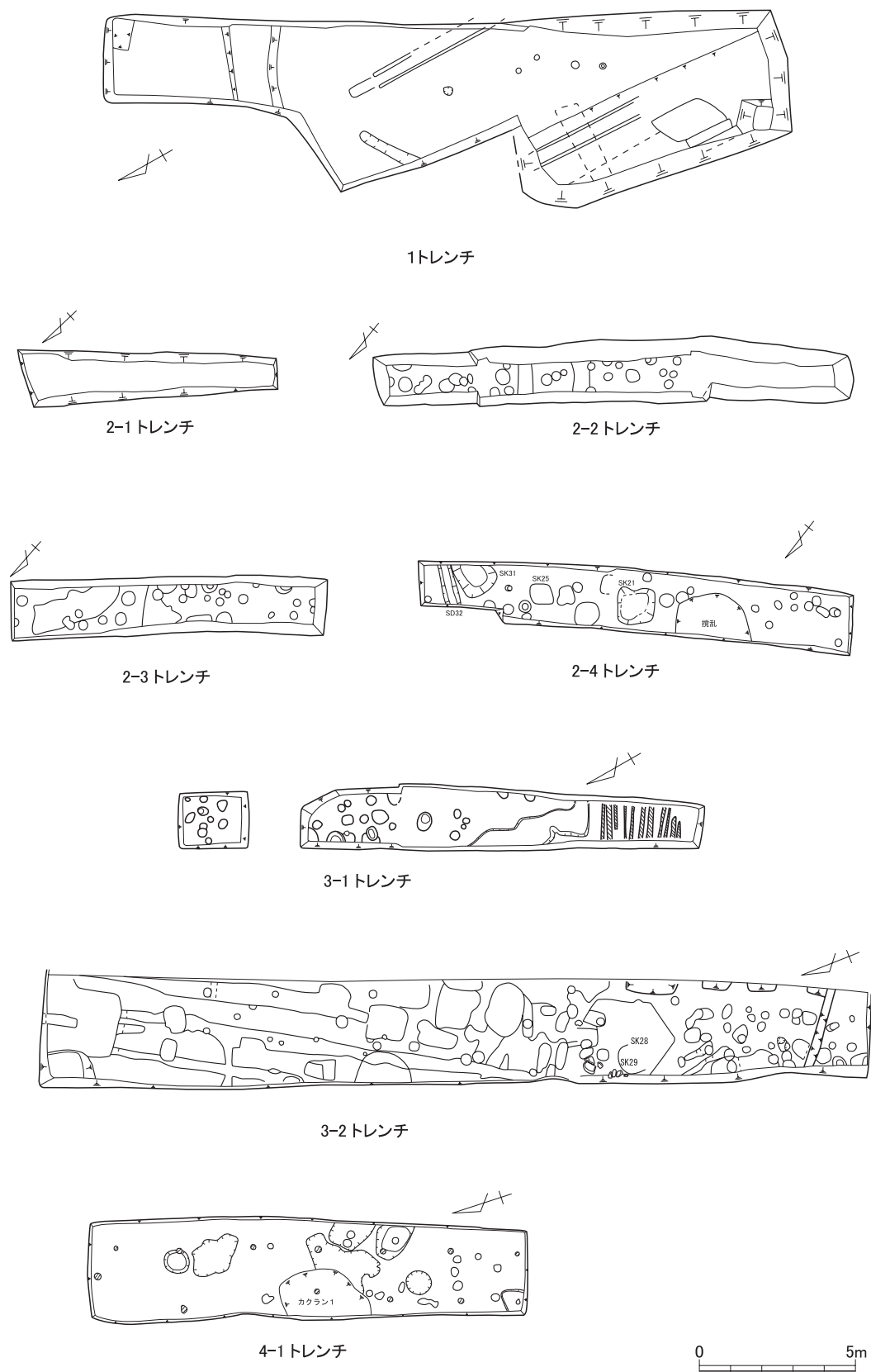
1区 長さ22m、幅3～6mの不整形な形状を呈するトレンチである(第3図)。トレンチの大半は現在の府道が新設される以前の道路や宅地等の攪乱により、顕著な遺構は検出されなかった。出土遺物としては、土師器や須恵器などの土器片がごく少量出土した。また、1区のすぐ北側に、今回の調査に先立って京都府教育委員会が実施した立会調査地がある。その調査成果の内容は、おおむね2区の調査成果と一致する。

2区 合わせて5か所のトレンチを設定した(2-1～2-5トレンチ)。このうち、2-5トレンチについては攪乱が著しく顕著な遺構・遺物は検出されなかった。しかし、2-1～2-4トレンチでは、柱穴等構を検出する(第3図)とともに、包含層から大量の遺物が出土した。このため、当初、排土置き場としていた地点についても、トレンチを拡張し、調査を進めた結果、大量の遺物が出土した。

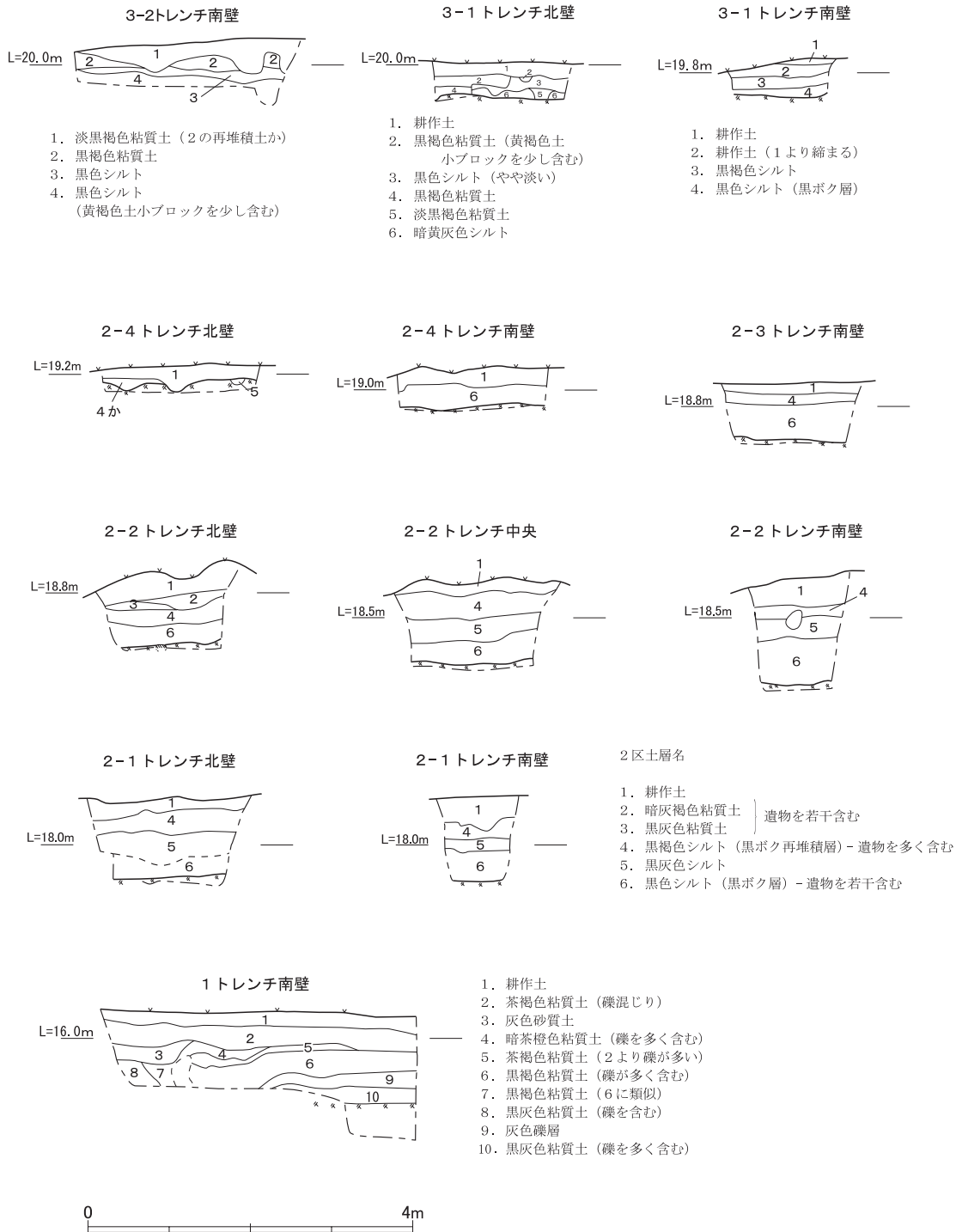
2区の基本的な層序(第4図)は、上から耕作土(1層)・黒褐色シルト(4層)・黒灰色シルト(5層)・黒色シルト(6層)・地山となる。遺物は、主に黒褐色シルト層から出土し、黒灰色シルトや黒色シルトからの出土はわずかである。黒褐色～黒色シルトは2-1トレンチ南端で厚さ約0.8mあり、北に薄く堆積していることが判明するとともに、2-4トレンチ北端では厚さは約0.15mであることが判明した。

一部の遺構は、各包含層の上面で検出できたが、大半は地山上で確認したものである。検出遺構としては、土坑や柱穴などがあるが、調査範囲が狭いため、建物に復原することはできなかった。土層の状況などから、古墳時代などに遡り得る遺構は、2-4トレンチで検出した土坑SK25・31、溝SD32などに限られる。また、多数の遺物が出土したものの、竪穴式住居跡等の居住施設を検出することはできなかった。

3区 合わせて2か所のトレンチを設定した(3-1・3-2トレンチ)。3-1トレンチから3-2トレンチの南半部にかけて2区から続く黒褐色シルト層などを確認したが、出土遺物の量は少なかった。顕著な遺構として、3-2トレンチで土坑SK28とその下層で土坑SK29を検出した。SK28からは中世の土師器皿が出土しており(第7図98・99)、その時期に位置づけられる。3-2トレンチの北半部は宅地の建設に伴い大きく削平されたようで、攪乱が著しく、顕著な遺構・



第3図 各調査トレンチ平面図



第4図 各調査トレンチ土層断面図

遺物は検出されなかった。

4区 大小合わせて4か所のトレンチを設定した(4-1～4-4トレンチ)。しかし、昭和30年代の府道建設や宅地建設などによって地山そのものが大きく削平されたような状況であることが確認でき、ごく少量の遺物を除いて顕著な遺構は検出されなかった。

2) 出土遺物

今回出土した遺物は遺構に伴うものは少なく、大部分は2区を中心に堆積した黒褐色シルト・

黒灰色シルト・黒色シルトから出土した。出土遺物は、器表面の残存状況が良好なものが多いものの、破片化したものが多く、全容を知ることができるものは少ない。今回の報告では、できるだけ器種構成や器形の違いなどを示すものを取り上げ、可能な限り図化に努めた。なお、4区出土遺物で、図示できるものはなかった。なお、出土遺物の総量は整理箱にして10箱である。

1区出土遺物は量的に非常に少なく、土師器甕・高杯の破片を図示できたに過ぎない(1・2)。

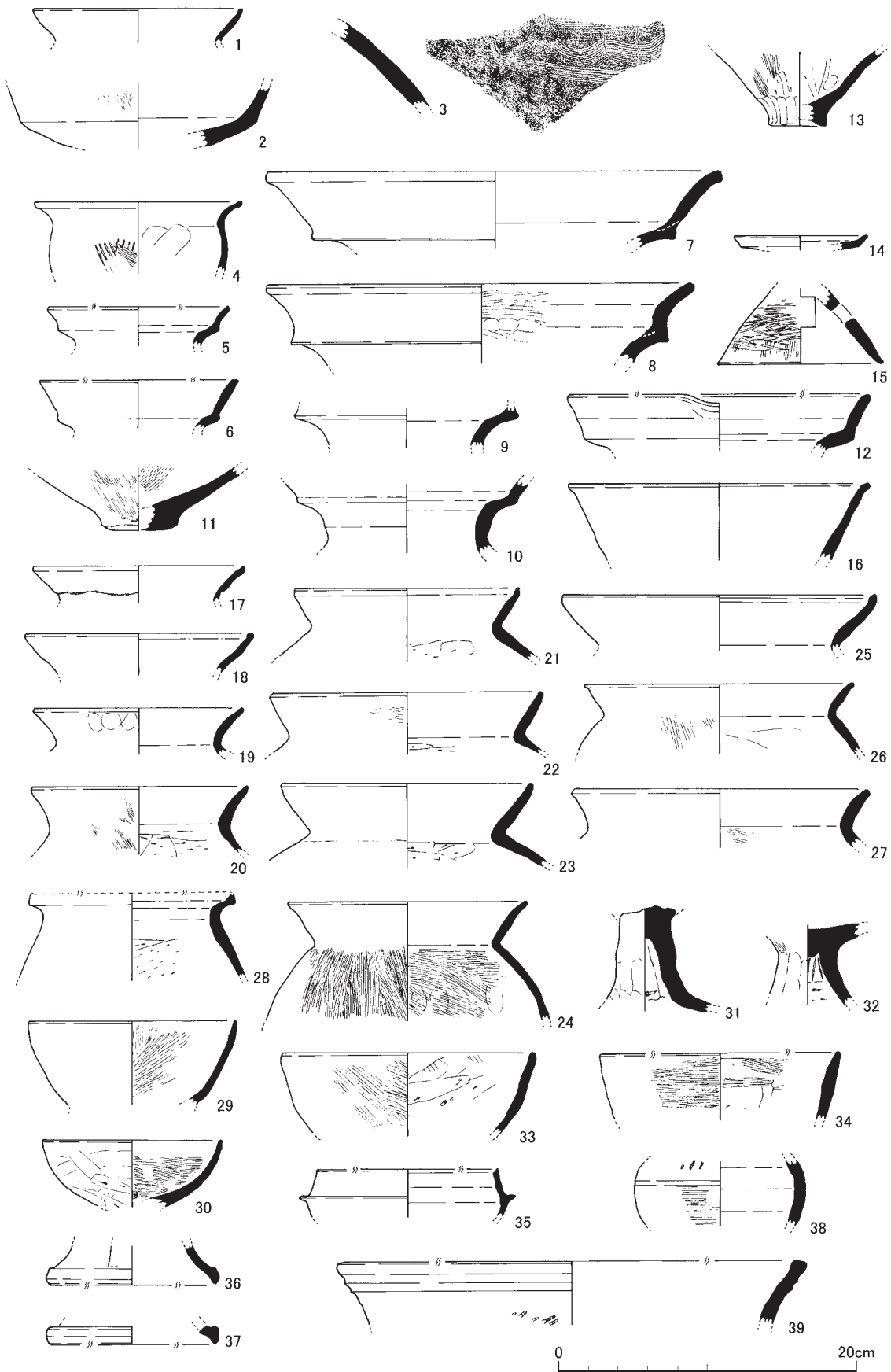
2区出土遺物としては弥生土器壺・甕、土師器壺・甕・鉢・高杯、須恵器杯・蓋・高杯など多種多様で、量的にも多い。

3～33は2-1トレンチで出土した。3・4は弥生土器である。3は大型の壺の肩部で、櫛描きによる波状文と直線文を施す。4は外面にタタキ調整を有する甕である。5～32は土師器である。5～10・12は二重口縁壺で、器壁の厚さなどから大型品と小型品があると考えられる。12は口縁端部が押し凹められており、片口であった可能性がある。11は壺の底部である。16は直口壺である。14・15は小型の器台である。17～28は甕である。17・21・22は口縁端部をつまみ上げるもの、18・25は口縁端部内面が肥厚するもの、19・20・23・24・26・27は口縁端部を丸く収める個体と面をなす個体に分けることができる。28は口縁端部を欠損するが、受け口状を呈する。29・30は椀状の高杯の杯部である。31・32は高杯の脚部である。33・34は鉢である。35～39は須恵器である。35は杯である。36・37は高杯の脚部である。38は壺または甕の体部である。39は甕の口縁部である。

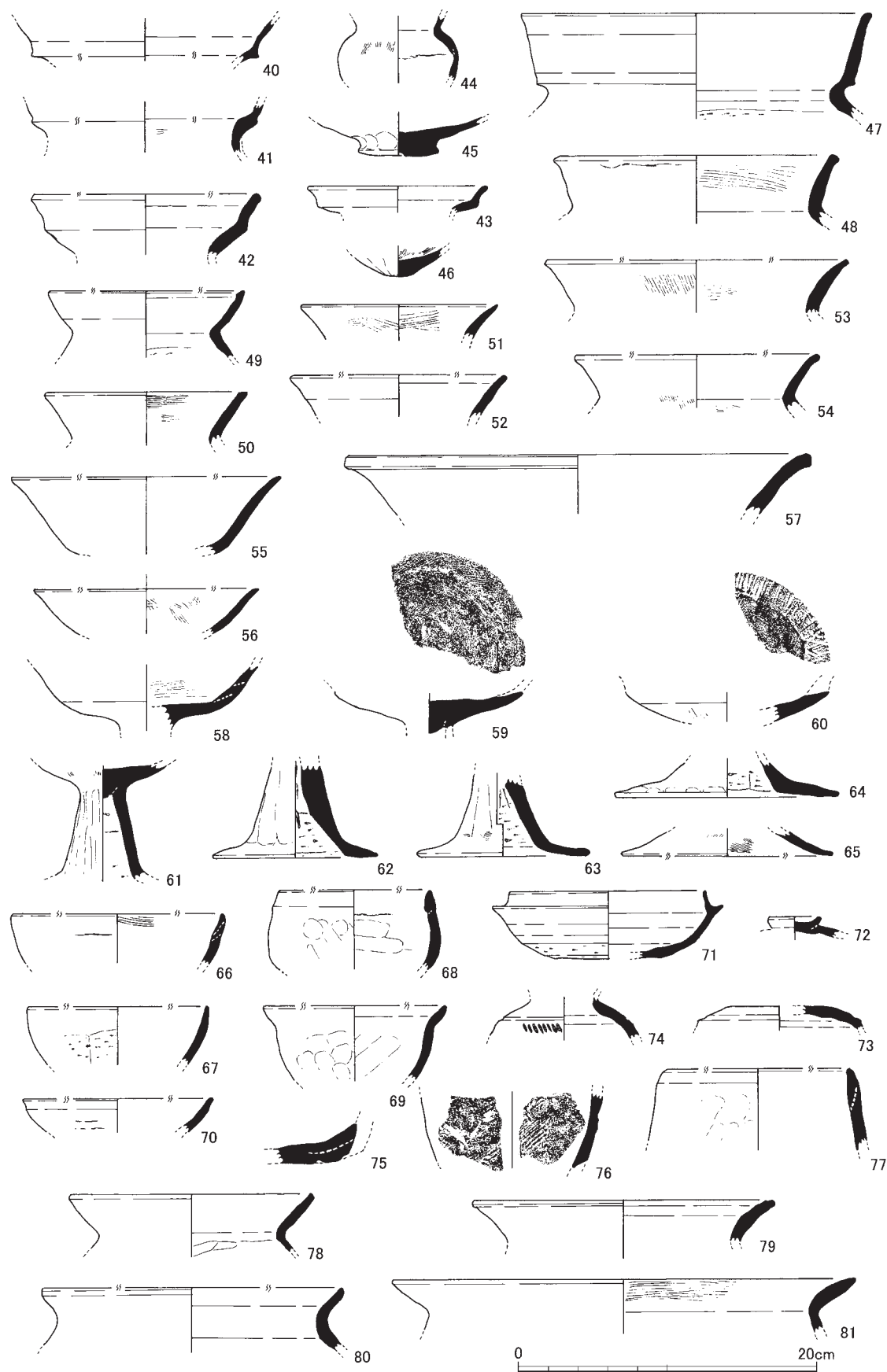
40～77は2-2トレンチで出土した。40～70は土師器である。40～43は二重口縁壺である。44は小型丸底土器である。45は壺の、46は甕の底部と考えられる。47～54は甕である。47は複合口縁を呈する山陰系の甕である。49は口縁端部内面が肥厚する布留式甕である。48・50～54は口縁端部を丸く収める、もしくは面をなすものである。55～65は高杯である。55～57は高杯杯部である。55は破片なので詳細は不明であるが、58～60は高杯杯底部である。59・60は杯底部と杯口縁部の接合面の調整痕跡が明瞭に分かる資料である。59はハケ調整で、60はヘラ状工具で刻み目を施す。61～64は高杯脚部である。いずれも裾部で屈曲して大きく開く形態を呈する。65も高杯脚部で、緩やかに「ハ」字状に開くものである。66～69は鉢であるが、66・67は椀形の高杯の杯部の可能性もある。68は内傾気味の口縁部を有する。69は弥生土器の可能性もある。70は杯であろうか。71～73は須恵器である。71は全体の形態を知ることができる杯である。72は高杯の蓋のつまみである。73は杯か高杯の蓋であろう。74は壺か甕の体部であろう。肩部に列点文と沈線を1条施す。75～77は製塩土器である。75はいわゆる「船岡式」製塩土器の底部片に類似する。^(注4)

78～88は2-3トレンチで出土した。78～84は土師器である。78～82は甕である。79は内面に強くナデを施した痕跡が3条ほどみられることから、いわゆる「青野型」甕と思われる。^(注5) 83は大型の鉢である。84は器台の脚柱部である。85は土錘である。86～88は須恵器である。86・87は高杯や椀の口縁部の破片と考えられる。88は器台と考えられ、外面にタタキ調整の後カキメを施す。内面にはタタキ調整に伴う当て具痕が残る。

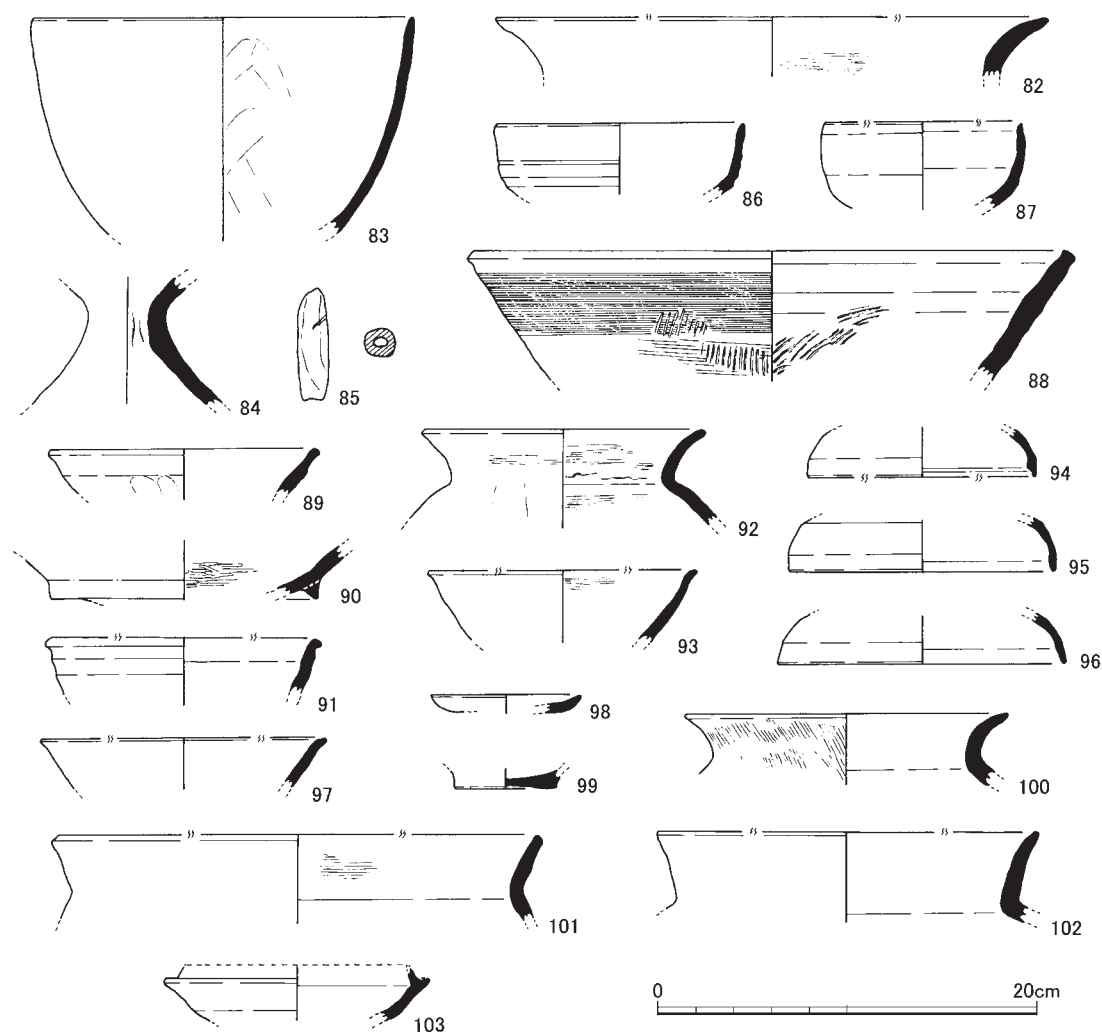
89～96は2-4トレンチで出土した。89は壺か甕と思われる。90は二重口縁壺であろうか。91



第5図 出土遺物実測図(1)



第6図 出土遺物実測図(2)



第7図 出土遺物実測図(3)

は鉢である。92は甕である。93は高杯の杯部あるいは高杯の杯部である。94～96は須恵器蓋である。

3区出土遺物には土師器壺・甕・高杯、須恵器杯・蓋などがあるが、2区にくらべ、量的に少ない。

97は3-1トレンチで出土した須恵器である。高杯の口縁であろうか。98～103は3-2トレンチで出土した。98～102は土師器である。98・99は土坑S K28から出土した。98は土師器皿である。99は椀もしくは杯の底部で、外面に糸切り痕が残る。100～102は甕である。103は須恵器杯である。上述の71よりも形式的に後出する資料である。

5. まとめ

調査範囲が限られていたため、顕著な遺構は検出されなかったが、2区を中心に多数の遺物が出土した。これらの遺物は上述のように弥生時代後期から古墳時代後期にかけてのものであり、昭和30年代に現府道が新設された際にも多くの遺物が出土したといわれており、今回の調査地周^(注6)

辺に当該期の集落が広がっていると考えられた。ただ、今回の調査では竪穴式住居跡等の遺構を検出することはできなかったため、今後の周辺の調査に期待される。

(筒井崇史)

- 注1 松本学博「天田内遺跡発掘調査概要」(『大江町文化財調査報告書』第9集 大江町教育委員会) 2001
- 注2 村上政市ほか「大江町の古代遺跡」(『高川原遺跡発掘調査報告書』(『大江町文化財調査報告』第1集 大江町教育委員会) 1975
- 注3 調査補助員：真下晴美・奥田栄吉・小島健之介
整理員：川村真由美・清水友佳子・村岡弥生・羽根舞
- 注4 石部正志編『若狭大飯－福井県大飯郡大飯町考古学調査報告－』福井県大飯町 1966
森浩一・石部正志他「福井県田烏湾における誇大漁業遺跡調査報告」(『稚鯨・近江・讃岐・阿波における古代生産遺跡の調査』同志社大学文学部文化学科) 1971
田代弘・筒井崇史ほか『浦入遺跡群 京都府遺跡調査報告書』第29冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター 2001
- 注5 石崎善久「『青野型甕』について」(『京都府埋蔵文化財論集』第3集 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター) 1996
- 注6 注2文献と同じの器種構成を考えたい。

圖 版



(1) 1 トレンチ南半全景(北東から)



(2) 1 トレンチ北半全景(南西から)



(3) 1 トレンチ土層断面(南西から)



(1) 2区作業風景(南西から)



(2) 2-1 トレンチ北端土層断面
(南西から)



(3) 2-1 トレンチ上層全景
(北東から)



(1) 2-1 トレンチ全景(南西から)



(2) 2-2 トレンチ南端土層断面
(北東から)



(3) 2-2 トレンチ中央部土層断面
(南西から)



(1) 2-2トレンチ中央部全景
(南西から)



(2) 2-2トレンチ南半部全景
(西から)



(3) 2-2トレンチ北半部全景
(南西から)

(1) 2-3 トレンチ土層断面
(南西から)



(2) 2-3 トレンチ全景(北東から)



(3) 2-4 トレンチ土層断面
(南西から)





(1) 2-4 トレンチ下層全景
(南西から)



(2) 2-4 トレンチ下層北端部全景
(北東から)



(3) 2-4 トレンチ下層
土坑 S K 21 全景 (南東から)

(1) 2-4 トレンチ下層 溝SD32
全景(東から)



(2) 2-5 トレンチ全景(南西から)



(3) 3-2 トレンチ作業風景
(北から)





(1) 3-1 トレンチ全景(北東から)



(2) 3-1 トレンチ北半部全景
(南西から)



(3) 3-1 トレンチ土層断面
(南西から)

(1) 3-2 トレンチ上層遺構面全景
(北東から)



(2) 3-2 トレンチ上層遺構面全景
(南西から)



(3) 3-2 トレンチ下層遺構面全景
(南西から)





(1) 3-2 トレンチ土坑 S K28 全景
(北東から)



(2) 3-2 トレンチ土坑 S K29
完掘状況(北から)



(3) 4-1 トレンチ全景(北から)



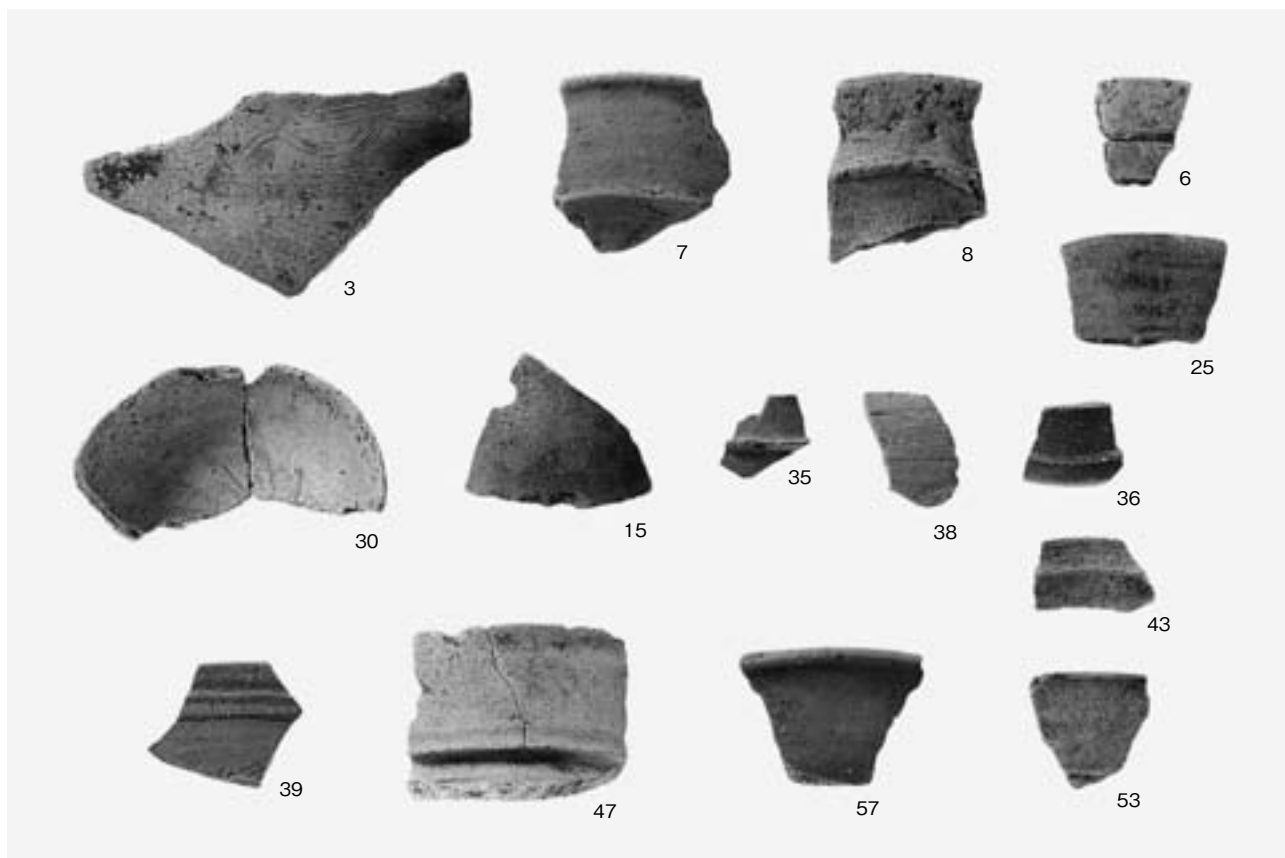
(1) 4 - 2 トレンチ全景(南西から)



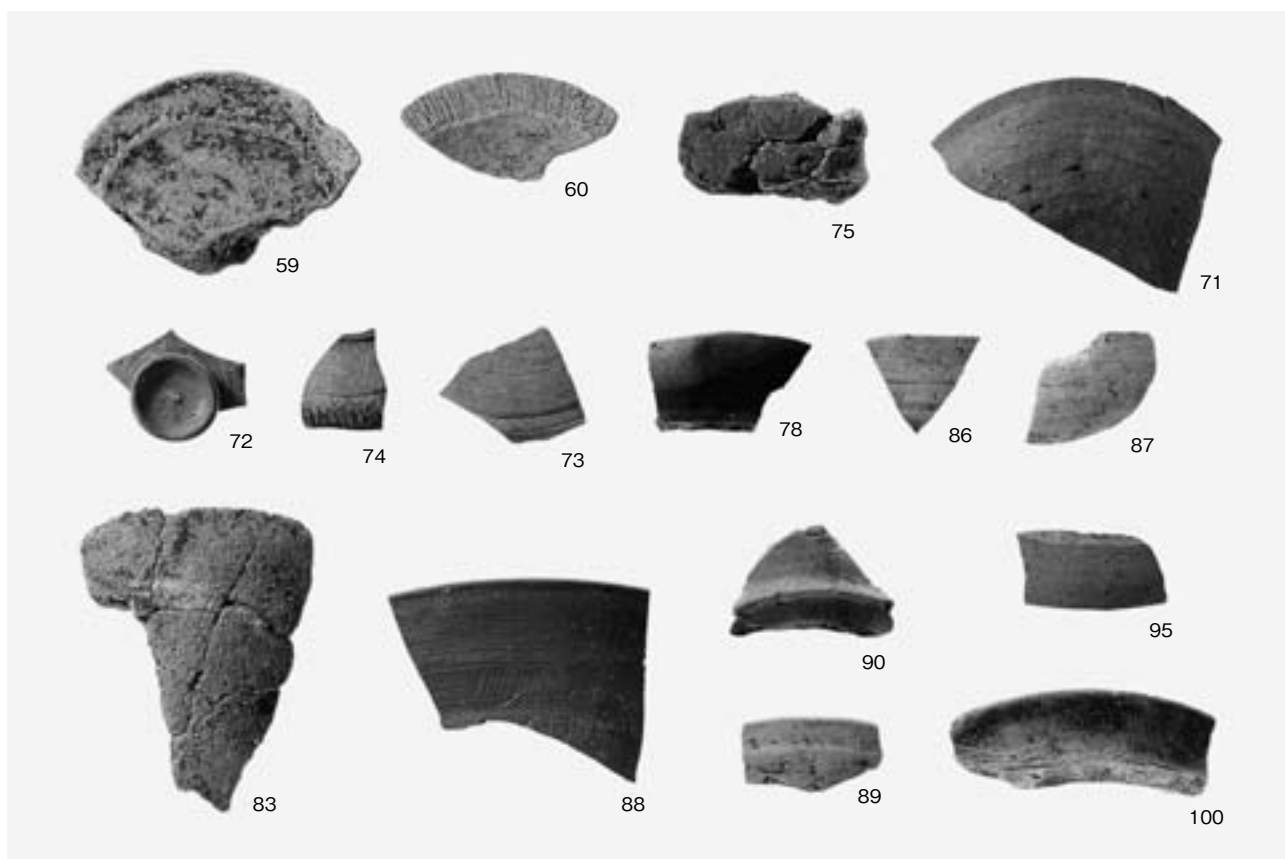
(2) 4 - 3 トレンチ全景(北東から)



(3) 4 - 4 トレンチ全景(北東から)



(1)出土遺物 1



(2)出土遺物 2

京都府遺跡調査報告集 第 140 冊

平成22年 3 月31日

発行 (財)京都府埋蔵文化財調査研究
センター

〒617-0002 向日市寺戸町南垣内40番の3
Tel (075)933-3877(代) Fax (075)922-1189
<http://www.kyotofu-maibun.or.jp>

印刷 三星商事印刷株式会社

〒604-0093 京都市中京区新町通竹屋町下ル
Tel (075)256-0961(代) Fax (075)231-7141